



社協だより

平成24年11月15日発行 社会福祉法人 士別市社会福祉協議会 士別市東5条3丁目 サポートセンターしべつ内 (TEL 22-3012) <http://www.shibetsu-shakyo.jp/>

士別近隣4市町で「ボランティア交流研修会」を開催しました。



愛知県社会福祉協議会
ボランティアセンター運営委員長
鈴木 盈宏 氏

昨年開催した「ボランティア愛ランド北海道2011かみかわ北部inしべつ」では士別市、名寄市、剣淵町、和寒町のボランティアの力を合わせ成功裡に終了しました。

これを機に更にボランティアのネットワーク強化を図るため10月13日士別市生涯学習センター「いぶき」にて開催しました。



北海道社会福祉協議会
ボランティア部会長
西川 勝夫 氏



基調講演会の様子

前半は鈴木氏の「ボランティアの可能性」と題しての基調講演があり、大切なことは「ありがとう」などの挨拶であると話されました。後半は鈴木氏と西川氏によるディスカッションで、テーマは「ボランティア活動のあり方について」で、活動の中で困った時は「仲間の連帯や共に取り組む気持ちが大切である」というお話がありました。

夜の交流会では1年前の愛ランドの思い出話と共に、今後の活動に繋げる情報交換で盛り上がり、「来年もまた会いましょう！」と誓い合って交流会は終了しました。



参加者みんなで合唱 ♪～



昨年の「愛ランド」が蘇る



オカリナとギター演奏

士別市福祉教育懇談会開催

こどもたちが、人と人との支え合いの中で、共に社会で生きる力を身につけるための「福祉の学び」のあり方への理解を深めるため「福祉教育懇談会」が11月2日にサポーターセンターしべつを会場に開催されました。この日は、学校関係者やボランティアセンターから21人が参加しました。講師として招いたのは、元士別市ボランティアセンター運営委員で現在、後志教育局社会教育指導に所属している藤田泰昭さんで「福祉共育」とは？、「学校と社協はどうつながるか」と題して講演が行われました。

藤田さんは、こどもたちに「共に生きる」とをどのように教えるのかを考える、「学校」と社協などの「地域の団体」がどのようにつながるかのヒントを参



加者たちに与えながらグループワークを通じて情報交換がされ、「福祉共育」とは、相手のことを知り、相手の当事者意識にたち、そして工夫してかわること、こどもたちも、いろいろな多くの経験と出会いが大切であるとお話され、参加者は、最後まで熱心に耳を傾けていました。

愛知県みよし市老人クラブ連合会との友好交流会

平成12年に本市と愛知県みよし市とは、友好都市提携を締結し、文化・スポーツやお祭り参加交流を通じて、交流を深めています。本市の老人クラブ連合会も10月9日から2泊3日で参加者男性14名、女性4名、引率者1名で平均年齢が77・5歳の高齢者一行で、みよし市老連役員と交流会を行ってきました。この縁は、昨年9月23日、みよし市老連役員11名が来市して、士別市老連役員と総合福祉センターにおいて情報交換・親睦懇親会での信頼関係が深まったことが契機となり、今回の友好視察訪問が実現いたしました。今回の訪問目的である、みよし市老連役員とそれぞれの現況と課題について報告し、情報交換の中で、みよし市は、現人口が約5万9千人で、65歳以上の高齢化率も23・9%本

市33・6%と低く、老人クラブ加入率も45%を占めて、若い役員が多く活気に満ち溢れた印象でうらやましい限りでした。また、世界のトヨタ会館、トヨタ自動車高岡工場の見学、名古屋の名所、旧跡などを見学し、参加者の皆さんも元気で帰路につき意義ある友好交流事業でした。



市33・6%と低く、老人クラブ加入率も45%を占めて、若い役員が多く活気に満ち溢れた印象でうらやましい限りでした。また、世界のトヨタ会館、トヨタ自動車高岡工場の見学、名古屋の名所、旧跡などを見学し、参加者の皆さんも元気で帰路につき意義ある友好交流事業でした。

「除雪ボランティア企業募集」

社会福祉協議会では、市内にお住まいの、高齢者または身体に障がいのある方で自力で除排雪できない方に対しての支援活動に協力いただく除雪ボランティア企業を募集しています。

活動は、毎年1月から3月にかけて除排雪の依頼があったお宅を確認し、登録企業に呼びかけ、日程などの調整後活動していただきます。

現在の登録企業は、しずお建設さん、久光組さん、三共建設さん、花輪組さん、久保重機工業さん、ミズタエンジニアさん、協友建設さん、西尾運送さん、㈱NIIPPOさんの9社です。

詳細につきましては、士別市社会福祉協議会事務局へお問い合わせ下さい。

TEL 2253012



ボランティアセンター「掲示板」

「上川北部ボランティア実践者交流会」に参加して

十月二十七日、士別市勤労者センターにて、テーマ「おもちゃがつなぐ絆 バリアフリーなおもちゃって？」と題し、士別市近隣の約五十名のボランティア実践者が参加して行われた。

午前中は風連幼稚園職員の上久美子さんのお話しと実際に色々なおもちゃに触れながら「バリアフリーなおもちゃ」とはどんなものか、みんな考えてみた。

昼食を取りながら自己紹介などで参加者同士の交流を深めたあと、お昼からは児童館の子ども達と一緒にプラレールを組み立て、異世代との交流を通し、喜びや心を育む活動の大切さを考えた。

おもちゃの魅力ですばらしい！と再認識。初めて会った人たちで最初は緊張していたが、ゲームが始まると会場は「笑顔」と「歓声」に包まれ、おもちゃって不思議な力を持っていると感じた。

最近のTVゲームはどんどん進化を続け、リアリティ感を私たちに与えてくれる。そして昔からある素朴なおもちゃを古臭いと言っている。しかし古臭く素朴なおもちゃにこそ長年愛され続ける魅力があるのだ。

年輩の方も、子どもたちもそして私も一緒に笑顔で過ごせた一日だった。

TY



「第45回朝日町福祉運動会」開催される

10月18日（木）朝日町農業者トレーニングにおいて、朝日支部地域活動推進事業の軽スポーツを楽しみながら親睦を深め、心身の健康増進と合わせて福祉の向上を図ることを目的に「第45回朝日町福祉運動会」が開催されました。

今年は老人クラブ、自治会、身体障害者福祉協会から89人、競技役員並びに昼食ボランティアの皆さんなど39人の総勢128人の参加ご協力のもと紅白に分かれて、11種目の競技を楽しんでいただきました。中でも左右のスタート地点から4名ずつスタートし、途中で数字入りのカードを拾い、2枚の合計点数が100点になる人と手つなぎゴールする「二人の心は100点満点」では、自分の数字を絶叫しながら相手を探す様子に会場が盛り上がりました。

総合成績では僅差で白組が優勝し、粥川大会長から優勝旗が白組代表鈴木清次さんに手渡され楽しかった大会が成功裡に無事終了いたしました。



「みんなそろって準備運動」



「二人の心は100点満点」



「大玉転がし」



「ジャラゲーム」



「紅白玉いれ」



「朝日音頭でみな踊れ」

